

平成8年度演習林年報

<https://doi.org/10.15017/18590>

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）。1996, 1998-03-26. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

は し が き

森林の生存期間は数百年と、人間の数代ないし十数代分にも及びます。演習林は、こうした森林を林学・林産学等の森林科学の教育・研究拠点、実証の場として活用するよう努力を重ねております。さらに、近年は地球環境問題の深刻化の中で、森林生態圏科学を含むフィールド科学の重要性がますます大きくなり、演習林が果たすべき役割についても学内外から厳しい目が向けられるようになっていきます。森林・林地をフィールド科学の場としての整備、活用が強く求められているのです。

ところで、演習林は大学の基本財産林として創設され、草創期の九州大学にとって施設整備資金の源泉として貢献し、その後も附属病院と並ぶ歳入部局として長期にわたって多額の木材販売収入の達成を期待されてきました。この歳入部局としての性格はいまも本質的には変わらず、収入目標の達成は今日でも重要な課題の一つです。しかし、こうした性格と、上述のようなフィールド科学の場として多様な森林・林地（大規模野外実験施設）を適正な状態で維持・管理することとの間には矛盾も少なくありません。かつては、木材収入の拡大を目指して森林管理が行われることも少なくなかったのです。

本演習林では、森林・林地をフィールド科学の場としての「大型野外実験施設」と位置づけ、様々な教育課題や研究課題に対応できるように、多様な森林群を常時、スタンバイの状態に維持すべく努力するとともに、教育・研究の主体としても高い機能を持つ組織へと軸足を移しつつあります。2000年度には農学部の大学院重点化に伴って森林資源科学専攻が整備される予定ですが、これに協力大講座（森林生態圏管理学）として参加するのもその一つの試みです。フィールド整備の面でのこうした考え方もっともよく反映しているのが「森林管理計画書」です。森林管理計画は、各演習林について10年毎に作成し、演習林審議会の承認を受けている10年計画ですが、現行の各演習林の計画期間はつぎのとおりです。

福岡演習林第7次森林管理計画書（1997～2006年度）

宮崎演習林第5次森林管理計画書（1996～2005年度）

北海道演習林第5次森林管理計画書（1992～2001年度）

これらの計画書は、従来は「施業案説明書」や「経営案説明書」と呼ばれていましたが、1987年度からの福岡演習林第6次森林管理計画から現在のように呼んでいます。これらの管理計画では、大型野外施設としての森林・林地の管理方針、伐採や造林保育等の事業計画並びに演習林としての研究課題等が定められています。そして、収入目標は、野外実験施設としての機能を壊さないためにも、この事業計画の範囲内で定める必要があります。近年は、こうした考え方が比較的良好に守られるようにはなりましたが、まだ問題も少なくありません。

森林を壊すことは簡単です。しかし、その再生には数十年、百数十年という超長期間を要します。演習林が、フィールド科学の教育・研究の場として高度な利用に耐える適正な森林群を提供できるように、将来にわたって努力を続ける所存です。

1998年2月

演習林長 堺 正 紘